

## 第4回青森県民駅伝競走大会レースの概要

### 第1区（八甲田丸～フェリー埠頭：5.495 km 一般）

今年は昨年同様天候に恵まれ、正午の気温は25度位までになっている。今大会も選手の安全性を確保するためにスタート地点の選手の位置を、1列目と2列目は昨年の上位チームをシードし、その他のチームは抽選により配置した。

スタート後は、青森市の河野選手がレースを引っ張り、三戸町、八戸町、東北町、五戸町がその後続く、4キロを過ぎたあたりから、徐々に河野選手が2位以下を引き離し、そのまま2区にトップでタスキを渡した。

### 第2区（フェリー埠頭～旧聖徳公園前：3.2 km 中学男子）

東北町の向井選手がベイブリッジ中間点に達し、残り400mで青森市を抜いてトップに立ち、青森市、八戸市、三戸町、名川町が後に続き、昨年2位と健闘していた八戸市は実力を発揮し、残り200mで3位から2位に順位を上げた。

なお、村の部では、南郷村が前半8位と健闘した。

### 第3区（旧聖徳公園前～合浦公園：2.9 km 女子）

イチヨウ、プラタナスと緑豊かな街路樹の続く中を合浦公園に向け、東北町の甲田選手がトップ、30m遅れて青森市が2位、3位には八戸市と続き例年の上位チームの顔ぶれが出揃う。市の部では、八戸市に次いで弘前市が順位を上げた。町の部では、東北町と三戸町が上位をキープしているが、大鰐町の永井選手が区間1位の快走を見せ12人抜きで8位に浮上した。

### 第4区（合浦公園～野内：4.0 km 一般）

声援の多い合浦公園でバトンタッチした東北町の山田選手は波に乗れずややペースダウン、快調な走りで八戸市の戦場選手が野内中継所手前の野内川付近で東北町を抜きトップに立つ、その後方から来た青森市が東北町とデッドヒートを演ずる。

実力のあるむつ市は石山選手が区間3位と頑張り13位から6位に順位を上げ、また、村の部では六ヶ所村の高田選手が区間1位で、19位から10人抜きの9位にチームを押し上げる力走を見せた。

残念ではあるが、野内中継所では、大会規定により先頭から10分以上の差となった8チームを繰り上げスタートさせた。前年より3チーム多い繰り上げとなる。

### 第5区（野内～諏訪沢：5.3 km 一般）

田園左奥に新総合運動公園予定地を見ながら、八戸市の佐々木選手がリズムに乗った走りでトップをキープ、2位争いは東北町の中村選手、青森市の野沢両選手のデッドヒートが第5区中継所まで続き、さらに1分45秒後方では、むつ市、六戸町の熾烈な戦いが最後まで繰り広げられ、むつ市が僅差で6区に継ぐ。また、総合順位40位の東通村の古川選手が区間9位で順位を29位に上げ、総合順位43位の川内町の徳田選手も大健闘し区間19位の力走をみせている。

#### 第6区（諏訪沢～戸山団地：5.4 km 一般）

稲穂も黄金色に輝き始め、豊作を喜ぶかのように見つめる昭和大仏に見送られながら八戸市の三上選手が徐々に差を広げる。その八戸市に遅れること16秒で東北町、さらに19秒遅れで青森市が続く。各チーム戸山団地イチョウ並木の続く最後の上り坂を走りぬき、第6中継所には上位3チームの後、むつ市、六戸町、三沢市、黒石市、弘前市、三戸町、六ヶ所村の順でタスキを継いでいく。

戸山団地中継所では、大会規定により先頭から15分以上の差となった9チームを繰り上げスタートさせた。昨年と比較すると4チーム多くなった。

#### 第7区（戸山団地～幸畑：3.7 km 女子）

7区戸山団地は、昭和53年頃から宅地造成が始まった団地であり、コースは比較的上りのきついコースである。女子にとってややきついこのコースの走者には女子マラソンの経験者もいる。トップ八戸市の西村選手が順調な滑りだしを見せ、その後を、東北町の野田頭選手が17秒差で追う形となった。青森市は6区でやや差が開く厳しい展開になる。町の部は東北町の後に、昨年町の部10位の六戸町、三戸町、名川町、大鰐町、横浜町、五戸町が続く。

村の部は4区で六ヶ所村がトップに立ち、その後、南郷村、福地村、天間林村、東通村、森田村がこれに続く。しかし、残念なことに、小泊村は選手にアクシデントがあり途中棄権となる。

#### 第8区（幸畑～流通団地入り口：5.2 km 一般）

最もアップダウンの厳しい難しいコースである。八戸市は、西村選手から木戸口選手にタスキが渡され、この時点で2位東北町に丁度1分の差がつき、3位青森市とは1分41秒の差になる。町の部で目立ったのは、女子区間で頑張りを見せた大鰐町が総合1位と健闘した。

区間順位を見てみると、上位チーム以外では、下田町の蛭名選手5位、野辺地町の菅岡選手6位、五戸町の鳥谷部選手9位と頑張った。

流通団地入り口の中継所でも、大会規定により先頭から15分以上の差となった29チームを繰り上げスタートさせたが、昨年の13チームに比較すると大幅に増えた。

#### 第9区（流通団地入り口～細越：3.2 km 40歳以上男子）

40歳以上男子の区間で、この区間の最年長者は脇野沢村の永井選手60歳である。その中で、八戸市の風晴選手は昨年同様のダイナミックな走りで前年度に続き区間ラップを奪い、2位東北町に1分近くの差をつけ八戸市の優勝を不動のものとする。2位以下は東北町、青森市、むつ市、三沢市と続く。

#### 第10区（細越～県陸上競技場：3.8 km 中学男子）

県小学生陸上競技記録会の行われている県総合運動公園陸上競技場に向かう。

9人の汗の染み込んだタスキを肩にかけ先頭の八戸市はそのままゴールに入り4年連続の優勝を果たす。（優勝タイム2時間12分10秒で昨年のタイムから25秒遅れ）

市の部の2位には昨年3位の青森市、3位に昨年2位のむつ市が入った。

町の部は総合順位2位の東北町が昨年度のタイムより6秒遅れで入ったが、町の部で3度目の優勝を勝ち取った。（優勝タイム2時間13分36秒）

2位には後半大健闘した大鰐町、3位に下田町が入った。昨年3位の野辺地町は惜しくも4位である。

村の部は六ヶ所村と南郷村が熱戦を繰り広げたが、13秒差で六ヶ所村がそのままゴールし、村の部4年連続の優勝を果たした。(優勝タイムは2時間19分40秒で昨年のタイムから3分21秒遅れ) 2位には昨年3位の南郷村、3位には昨年2位の福地村が入った。